



発達障害
啓発週間 in たかさき

・・・地域で広げよう！
発達障害への理解と支援・・・

児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、相談支援事業所、協力団体のパンフレット等を掲示します。

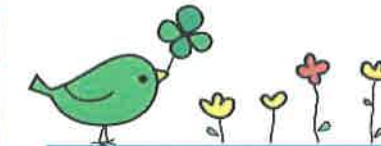
掲示期間：令和2年3月28日（土）～4月3日（金）
場所：高崎市役所 1Fロビー

発達障害の特性のある人には、一見してわかりにくい”生活のしづらさ”があります。たとえば、多くの人が平気と感じる音や光、温度やさわり心地、味やおいなどに苦痛を感じることがあります。また、じっとしていなければならない場面だとわかっていても、声が出てしまったり体が動いてしまったりして周囲から叱られることもあります。

発達障害に関する知識や、関わり方について、みなさまの理解と支援の輪が広がるよう、啓発活動を行います。



＊ ＊毎年4月2日は、国連の定めた「世界自閉症啓発デー」、4月2日～8日の1週間は、「発達障害啓発週間」です ＊ ＊



高崎市こども発達支援センター
〒370-8501
高崎市高松町35-1（高崎市役所17階）
TEL (027) 321-1351（直通）
FAX (027) 326-9180
E-Mail: kodomo-hattatsu@city.takasaki.gunma.jp

情報発信【子育てのヒント③】

～「ほめる」しつけとは②～



前回は、子どもに対して禁止ではなく、してほしい適切な行動を伝えること、「ほめる」「認める」かわりを多くして穏やかな関係を作ることをお話ししました。今回は、「注目」とほめるために「待つ」ことをご紹介します。

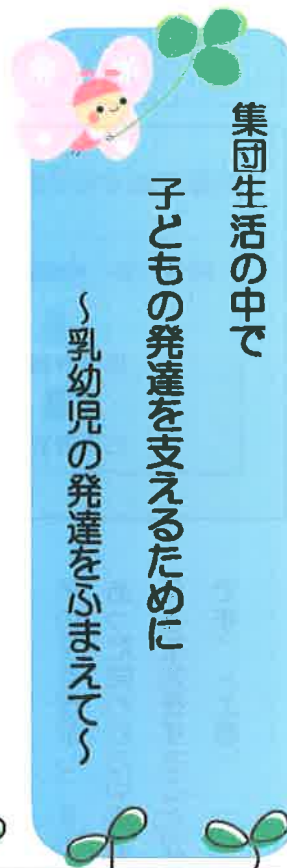
子どもは、大人に注目してもらうことが大好きです。注目されることで、子どものその行動は増えていきます。注目には2種類があります。

- ＊ポジティブな注目：ほめる、認める、笑顔を返す、興味や関心を示すなど
- ＊ネガティブな注目：注意する、叱る、どなる、ため息をつく、眉間にしわを寄せるなど



誰でもほめられるとうれしいものです。大人がポジティブな注目を増やすことで、子どもの適切な行動がさらに増えます。ところが、注意や叱責であっても、子どもにとっては同じ注目の意味があります。子どもの適切でない行動に、大人がネガティブな注目を増やせば増やすほど、子どものその行動は増える結果となります。

子どもが適切でない行動をしたときには、すぐ反応せずに一呼吸おきましょう。そして、大人が落ち着いて子どもに適切な行動を伝え、行動の変化を待ちます。この時、大人の表情や口調は平静であることが重要で、ネガティブな注目としないよう注意してください。そして、ほんの少しでも行動の変化がみられたら、すかさずほめましょう。例えば、テーブルに上っているのを見たとき、「ダメ！」ではなく、落ち着いた口調で「イスに座ろう」と伝えます。凝視（これも注目です）しませんが子どもの行動は観察し、適切な行動を待ちます。そして、少しでも反応が見られたらすかさずほめましょう。25%でほめてよいのです。ネガティブな注目を減らすだけでなく、ほめる、認めるポジティブな注目を増やすことで、この対応がさらに上手いくのです。



当センターでは毎年、幼稚園・保育園・認定こども園のコーディネーターの先生を対象に研修会を実施しています。研修会での学びの一部をご紹介します。

★子どもの発達の基礎知識

子どもの発達は、身長や体重の増加、目・耳・舌などの機能や感覚、運動、知能、言語、情緒、社会性などにおいて、それぞれの発達段階があります。また、発達には次の3つのポイントがあります。

① **発達には順序がある**（図1）
発達は順序に従って段階的にすすむ。ゆっくりでも、一つ一つ積み上げるのが大切。

② **発達は一定方向に進む**（図2）
頭部から下部へ、中心部から末端部へ。

③ **発達には個人差がある**（図3）
子どもそれぞれ育ちの道のりがある。他児と比べるとはななく、何ができているかよく観察する。

運動や言葉の発達がゆっくりである場合、私たちは目の前のできないことにとらわれがちです。しかし、大切に



発達には順序がある

子どもは遊びを通して育ちます。赤ちゃんは物をなめたりすることで物を認知し、感覚を楽しむ遊びを十分することで、まねをする遊びや見立て遊びがみられるようになります。友だちとイメージが共有できるようにすると、子ども同士の関わりが増えて、ルールのある遊びが楽しめるようになります。遊びは心身の発達や社会的なスキルを学ぶ機会でもあるのです。

このように、子どもが健やかに成長するためには、発達にあった遊びがとても大切です。幼稚園や保育園での日々の活動が、子どもの身体機能を育てたり、見る・聞く・触るなどの情報を受け取る力を育てるために役立っています。子どもが「できた」という達成感

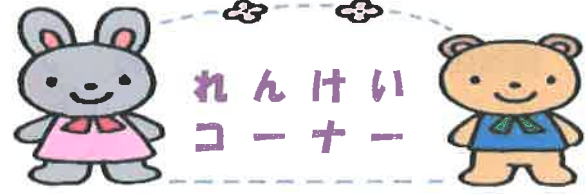


なものは、その子が今できることや発達などの地点にあるのかを観察して、年齢ではなくその子に合わせた関わりを行い、子どもの健やかな成長を支援することです。

★発達を促す関わりとは



群馬整肢療護園



子どもたちが毎日自分らしくいきいきと過ごせるよう、地域で取り組む支援機関をシリーズで紹介します。

こんにちは！群馬整肢療護園の発達支援についてご紹介いたします。

群馬整肢療護園は、医療型障害児入所施設・療養介護事業所を母体とする施設です。外来部門では、発達に特性のあるお子さんへの支援も行っています。医師の診療のもと、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士が専門性を生かしてリハビリ支援や相談をお受けします。主に就学前のお子さんで、当園の特色であるリハビリ支援の必要な方を対象としています。

<外来診療>

当園では、小児科、整形外科、小児外科、児童精神科の診療を行っています。
(診察は、医療機関等からの紹介予約制となります)
発達などの相談におこたえしています。



<外来リハビリテーション>

★理学療法 (PT)

一人一人の潜在的な運動能力を引き出し、

お子さんやご家族の方のやりたいことにつなげられるように援助していきます。また、お子さんが安心して過ごせるように、姿勢や呼吸面の支援を行います。車椅子や補装具関係の相談、作成なども行います。

★作業療法 (OT)

お子さんに必要な日常生活動作や道具の操作の獲得、あそびの充実などを目標に、好きなあそびを中心としたいろいろな作業活動を利用して行います。家庭や地域で自分らしく生活できるように、一緒に練習したり、道具の工夫などの環境調整を行います。



★言語聴覚療法 (ST)

お子さんの発達に合わせて、あそびを通してことばの理解を促し、相手に伝えたい気持ちを育てていきます。食べることについても、発達に合わせて一緒に考えて支援していきます。



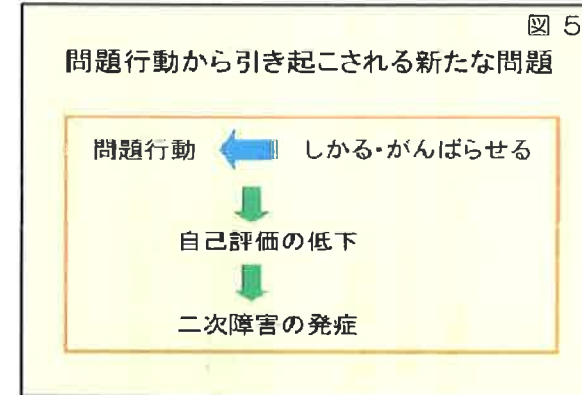
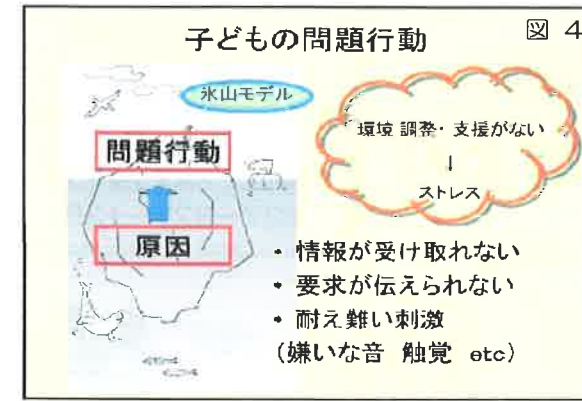
★心理療法

発達や認知面に関する特徴および、診断に関する特性のアセスメントを実施し、その結果をもとに、ご本人に合った環境や支援方法を一緒に考えていきます。また、必要に応じて関わり方についての相談を実施しています。



<リハビリを開始するまでの流れ>

- ① 初回診察・評価の処方：診察にて、医師から評価の指示が出ます。
- ② 評価：処方に応じた評価（理学療法 (PT) ・作業療法 (OT) ・言語療法 (ST) ・心理) を実施します。
- ③ 診察（評価の結果をお伝えする診察）：医師による各評価についての説明・リハビリの処方を行います。
- ④ リハビリ開始：個別のプログラムを立てて実施します。1対1でじっくり関わる事が出来、保護者の方との情報共有やホームプログラムの提案も行っています。



発達障害とは一つの特定した障害名ではありません。物事を考えたり、何かを感じたり、実行するときにくしく中枢神経系の機能の違いによるかたよりであり、生まれつきの性格のようなものです。表面的な行動は変化しても、かたよりの本質は大きく変わることはありません。個性と障害を見極めることはとても難しいことです。診断は専門医に相談することが大切です。

かたよりが見られても、生活に支障がない場合や本人の中に困り感がない場合は、個性と捉えてよいと思います。診断があっても、周囲の理解と支援があれば、日常生活に支障なく生活できるのです。

★発達障害とは
をたくさん感じられるよう、大人も一緒に楽しんで活動できるとよいでしょう。



★子どもの発達を支えるには
子どもたちが健やかに育つためには、ありのままの自分を受け入れてもらい、たくさんほめられて、「できた」という経験を積み重ねて、自信をもってのびのびと生活することが大切です。(図6)

そのためには、私たちが、その子を理解し、その子にあった関わり方や環境を整える工夫することが重要です。(上原)



★問題行動から起きる新たな問題
集団生活に支障がある場合、子どもの問題行動として捉えられることがしばしばあります。しかし、問題行動は表面に現れている氷山の一部分のようなもので、その下には、子どもが困っていることが隠れています。(図4)

問題行動を叱ったり頑張らせたりしても、解決にはなりません。周囲の状況や人の気持ちなど、目に見えないことわりにつなげてしまいます。さらにこのような経験が積み重なると、身体症状があらわれたり、二次障害を発症したりする心配もあります。(図5)



「あひるのうた」
著 藤村 幸久
監修 飯野和好・え
(出版 教育画劇)

最初は好きじゃなかったのに、仲良くなった二人。相手を思いやる優しさや子どもの素直な気持ちに、読み終わった後、心があたたくなるお話です。
(K)



おすすめの一冊